

2024年度自己評価表（舞鶴 YMCA 国際福祉専門学校）

1. 学校の教育目標

本校はキリスト教精神に基づき、教育基本法及び学校教育法に則り、商業実務専門課程及び社会福祉専門課程を設置し、外国語、観光、商業、及び社会福祉の知識並びに技能を教授するとともに広範な国際的視野をもって、地域社会と人々とに奉仕する人材を養成することを目的とする。

2. 本年度に定めた重点的に取り組むことが必要な目標や計画

- 1). 地域の就業ニーズに応えるべく、行政・就業先・諸団体との連携・共働を深め、グローバルな人財の確保・養成を進める。
- 2). Well-being な人材の養成に寄与する特色あるカリキュラム作りと、Society5.0を見据えた教育内容を推進・強化する。
- 3). 持続可能な学校作りのための付帯事業の拡大と学校運営・教職員組織を強化する。
- 4). Think globally, Act locally を意識したグローバルな「つながり」を広げる。

3. 評価項目の達成及び取組状況

(1) 教育理念・目標

評価項目	適切...4, ほぼ適切...3, やや不適切...2, 不適切...1
理念・目的・育成人材像は定められているか (専門分野における職業教育の特色は何か)	④ 3 2 1
社会経済のニーズ等を踏まえた学校の将来構想を抱いているか	④ 3 2 1
理念、目的、育成人材像、特色、将来構想などが生徒保護者等に周知されているか	4 ③ 2 1
各学科の教育目標, 育成人材像は, 学科等に対応する業界のニーズに向けて方向づけられているか	④ 3 2 1

<課題>

教育目標・育成人材像は、国際観光ビジネス学科・介護福祉学科の各業界のニーズに対応している。また、舞鶴 YMCA 国際福祉専門学校の全教職員は、設置理念を理解したうえで教育活動を行っている。在学生には、教育目標を式典やオリエンテーションなどの機会に説明している。高校生

やその保護者にはオープンキャンパスなどで説明している。しかし、十分に理解されているかどうかの確認はしておらず、あらゆる機会を通じて理解度を確認・周知することが課題である。

<今後の改善方策>

学校の理念や教育目標は、学生や保護者には理解し難いものであることを考慮し、これまで以上にあらゆる機会を通じてわかりやすく、くりかえし説明していく。また、普段の学びを通じて学生が実感できるように教職員が意識して教育活動を行う。

(2)学校運営

評価項目	適切...4,ほぼ適切...3, やや不適切...2,不適切...1			
目的等に沿った運営方針が策定されているか	④	3	2	1
事業計画に沿った運営方針が策定されているか	④	3	2	1
運営組織や意志決定機能は,規則等において明確化されているか,有効に機能しているか	④	3	2	1
人事,給与に関する制度は整備されているか	④	3	2	1
教務,財務等の組織整備など意識決定システムは整備されているか	④	3	2	1
業界や地域社会等に対するコンプライアンス体制が整備されているか	④	3	2	1
教育活動に関する情報公開が適切になされているか	④	3	2	1
情報システム化等による業務の効率化が図られているか	4	③	2	1

<課題>

学校運営の目的や各年度の事業計画・運営方針は年度初めに教職員に説明がされている。情報システム化については少しずつ進めているが、業務の効率化が図れているところまで進んだとはいえない。

<今後の改善方策>

日ごろの業務のなかで、システム化された方が効率的だと思えるようなことを教職員が共有し、システム化を進めていく。

(3)教育活動

評価項目	適切...4,ほぼ適切...3, やや不適切...2,不適切...1
教育理念等に沿った教育課程の編成実施方針等が策定されているか	④ 3 2 1
教育理念,育成人材像や業界のニーズを踏まえた教育機関としての修業年限に対応した教育到達レベルや学習時間の確保は明確にされているか。	④ 3 2 1
学科等のカリキュラムは体系的に編成されているか	④ 3 2 1
キャリア教育実践的な職業教育の視点に立ったカリキュラムや教育方法の工夫開発などが実施されているか。	④ 3 2 1
関連分野の企業関係施設等,業界団体等の連携により,カリキュラムの作成見直し等が行われているか	④ 3 2 1
関連分野における実践的な職業教育(産学連携によるインターンシップ,実技実習等)が体系的に位置づけられているか	④ 3 2 1
授業評価の実施評価体制はあるか	④ 3 2 1
職業に関する外部関係者からの評価を取り入れているか	④ 3 2 1
成績評価単位認定の基準は明確になっているか	④ 3 2 1
資格取得の指導体制,カリキュラムの中での体系的な位置づけはあるか	④ 3 2 1
人材育成目標に向け授業を行うことができる要件を備えた教員を確保しているか	④ 3 2 1
関連分野における業界との連携において優れた教員(本務兼務含め)の提供先を確保するなどマネジメントが行われているか	④ 3 2 1

関連分野における先端的な知識技能等を修得するための研修や教員の指導力育成など資質向上のための取組が行われているか	4	③	2	1
職員の能力開発のための研修等が行われているか	4	③	2	1

<課題>

キャリア教育の視座にたったカリキュラムを工夫している。関連分野の企業や施設との連携については、実習中の訪問や日々の密な連絡で行っている。教育課程編成委員会を開催し、職業やカリキュラムに関する外部評価を取り入れている。授業アンケートを実施し、教育方法の工夫や改善につなげている。教職員の研修については徐々に参加を増やしているが、多いとはいえない。

<今後の改善方策>

学校関係者評価委員会等を設置し、幅広く評価を受け、カリキュラムだけではなく学校全般の改善につなげる。研修については、あらゆる機会を捉えて参加し、今後も授業や学校運営に反映できるようにする。

(4)学修成果

評価項目	適切…4,ほぼ適切…3,やや不適切…2,不適切…1			
就職率の向上が図られているか	④	3	2	1
資格取得率の向上が図られているか	④	3	2	1
退学率の低減が図られているか	④	3	2	1
卒業生在校生の社会的な活躍及び評価を把握しているか	④	3	2	1
卒業後のキャリア形成への効果を把握し学校の教育活動の改善に活用されているか。	4	③	2	1

<課題>

卒業半年後にアンケートを実施し、活躍の様子や就業の定着を確認している。しかし、経年調査は実施しておらず、長期的な卒業生のようすを追うことができていない。

＜今後の改善方策＞

定期的に就職先の施設と連絡を取り、卒業生のようなすや離職を把握していく。

(5)学生支援

評価項目	適切…4,ほぼ適切…3, や や不適切…2,不適切…1			
進路就職に関する支援体制は整備されているか	④	3	2	1
学生相談に関する体制は整備されているか	④	3	2	1
学生の経済的側面に対する支援体制は整備されているか	④	3	2	1
学生の健康管理を担う組織体制はあるか	④	3	2	1
課外活動に対する支援体制は整備されているか	4	③	2	1
保護者と適切に連携しているか	④	3	2	1
卒業生への支援体制はあるか	④	3	2	1
高校,高等専修学校等との連携によるキャリア教育職業教育の取組が行われているか	4	③	2	1

＜課題＞

課外活動については、ボランティア等の掲示や声かけなどの支援体制は整っているが、学生の自主的な申し出にまかせており、活発に行われているとはいえない。

＜今後の改善方策＞

ボランティア活動に参加することの意義を説明することなどによって、学生の課外活動の参加率を上げると同時に、学内での活動を希望する学生への支援も積極的に行う。

＜特記事項＞

就職関係の授業があり、学生は気軽に進路の相談ができる。また、教職員は学習・就職・友人関係などについて、気になる学生には教職員が協力して声かけをしている。必要に応じ、保護者にも連絡し状況を報告している。

(6)教育環境

評価項目	適切…4,ほぼ適切…3, やや不適切…2,不適切…1
施設設備は教育上の必要性に十分対応できるよう整備されているか	④ 3 2 1
学内外の実習施設,インターンシップ,研修旅行等について十分な教育体制を整備しているか	④ 3 2 1
防災に対する体制は整備されているか	④ 3 2 1

<課題>

本校は福井県高浜原発から概ね 30 キロ圏内にあることもあり、学生配付の学生のしおりにも災害発生時の注意点を記載している。また、本校所在地自治体の防災情報配信サービスへの登録を促している。授業などで防災講座などを取り入れているが、今後は地域住民との連携などの体制づくりも必要である。

<今後の改善方法>

(7)学生の受入れ募集

評価項目	適切…4,ほぼ適切…3, やや不適切…2,不適切…1
学生募集活動は,適正に行われているか	④ 3 2 1
学生募集活動において,教育成果は正確に伝えられているか	④ 3 2 1
学納金は妥当なものとなっているか	④ 3 2 1

<課題>

入学者受け入れに関しては、資料請求者には募集要項、学校案内等を無料で送付しているほか、ホームページでも公開し、学費やオープンキャンパス等を含めた入学についてのあらゆる情報を確認できるようにしている。入試形態も複数設け、多様な生徒に対応している。学生の出身高校には、訪問時に在学生の勉強や学校生活の状況報告をしている。また、SNS 等をとおして、広く教育成果を伝えている。今後は、さらなる本校の周知が課題である。

＜今後の改善方策＞

就職実績や授業活動の様子なども積極的にアピールし、周知を図っていく。

(8)財務

評価項目	適切…4,ほぼ適切…3, やや不適切…2,不適切…1			
中長期的に学校の財務基盤は安定しているといえるか	4	3	②	1
予算収支計画は有効かつ妥当なものとなっているか	4	③	2	1
財務について会計監査が適正に行われているか	④	3	2	1
財務情報公開の体制整備はできているか	④	3	2	1

＜課題＞

教育活動収支の均衡を保ち、財政基盤を安定化する必要がある。

＜今後の改善方策＞

合理的な運営による支出の削減と学生数の増加への取り組み、付帯事業の創設を行う。

(9)法令等の遵守

評価項目	適切…4,ほぼ適切…3, やや不適切…2,不適切…1			
法令,専修学校設置基準等の遵守と適正な運営がなされているか	④	3	2	1
個人情報に関し,その保護のための対策がとられているか	④	3	2	1
自己評価の実施と問題点の改善に努めているか	4	③	2	1
自己評価結果を公開しているか	④	3	2	1

＜課題＞

自己評価は毎年行っているが、問題点の改善について定期的な確認ができていないところがある。

＜今後の改善方策＞

教職員全員が改善の意思を持てるように定期的に確認をしていく。

(10)社会貢献地域貢献

評価項目	適切…4,ほぼ適切…3, やや不適切…2,不適切…1
学校の教育資源や施設を活用した社会貢献地域貢献を行っているか	④ 3 2 1
生徒のボランティア活動を奨励,支援しているか	④ 3 2 1
地域に対する公開講座教育訓練(公共職業訓練等)の受託等を積極的に実施しているか	④ 3 2 1

<課題>

自治体からの受託事業として、成人や高校生向けの観光系講座を毎年実施しており、地域貢献に寄与している。また、教員のもつ知識や技能を地域で役立てるため、一般向けの介護系講座を無料で実施している。地域で毎年行われているハーフマラソンにも、1年生全員がボランティアとして参加している。今後も地域に根ざした活動で貢献をすることが課題である。

<今後の改善方策>

地域貢献を拡大するため、まず地域のニーズが何なのかを知る取り組みを行う。また、受託事業は今後も積極的に受け入れ、提案をしていく。